

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は143～145円台を軸に上下に振幅が

〔5月12日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）				5月5日～5月9日	
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	144.94	146.19(9)	142.36(6)	145.33	+0.37
ユーロ・ドル	1.1307	1.1381(6)	1.1197(9)	1.1244	-0.0053
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	37,503.33	+672.64	日本10年債利回り	1.365	+0.101
ダウ平均株価	41,368.45	+51.02	米10年債利回り	4.379	+0.070
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 12日 日本3月経常収支
- 13日 日銀金融政策決定会合における主な意見（4月30日～5月1日開催分）
 - 英4月雇用統計
 - 独5月ZEW景況感指数
 - 米4月消費者物価指数
- 14日 独4月消費者物価指数
- 15日 豪4月雇用統計
 - 英第1四半期GDP速報値
 - 英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支
 - スイス4月生産者輸入価格
 - ユーロ圏第1四半期GDP改定値、ユーロ圏3月鉱工業生産指数
 - カナダ3月製造業出荷、カナダ3月卸売売上高
 - 米4月小売売上高、米5月NY連銀製造業景気指数
 - 米4月生産者物価指数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米4月鉱工業生産・設備稼働率
- 16日 日本第1四半期GDP1次速報
 - 日本3月鉱工業生産指数確報値
 - ユーロ圏3月貿易収支
 - 米4月住宅着工・建築許可件数、米4月輸入価格指数
 - 米5月シガン大学消費者信頼感指数速報値
 - 米3月対米証券投資

【前回のレビュー】FRBがいずれ利下げに動くと思われる一方で、日銀の利上げ観測は後退しつつある。市場では米国の年内の利下げ回数は3～4回前後と想定されている。一方で、日銀は年内の利上げを見送るとの観測が高まりつつある。こうした中、ドル円は一時的に戻りを見せるものの、長くは続きにくく、145円前後を中心とした振幅になりそうだ。

【米中関税交渉の進展期待などからドル円は上昇】

2日に米中関税交渉進展への期待感や4月の米雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を上回ったことからドル買い円売りに傾き、一時145円台を回復した。週明けの5日や6日はトランプ関税に対する不透明感が根強いことで、ドル売り円買いの動きに傾き、142.30台まで下落した。

7日の朝方に米中間の通商協議開始の報道があり、ドル高円安に振れた。中国商務省は何副首相が9日から12日の日程でスイスに向かい、ベッセント財務長官と協議を行

うと発表した。また米国側も10日にベッセント財務長官とグリアUSTR代表が中国高官と協議を行う旨を公表している。この報道を受けて、リスク警戒後退のドル買い円売りとなり、ドル円は142.40台から143.20台に急騰した。

5月6～7日に開始された米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利は市場予想の通り、4.25～4.50%に据え置きとなった。据え置きは3会合連続となる。声明では、「経済見通しの不確実性がさらに高まった」「失業率とインフレの上昇リスクが高まった」といった見解が示された。

パウエル議長は記者会見で、「利下げを急ぐ必要はないと考えている。忍耐強くデータを確認する」「関税の影響が警戒されているが、まだ影響は顕在化していない」「高関税が続くようなら、インフレの再燃に加えて景気減速や雇用の悪化を招く」との見解を示した。また、トランプ政権の圧力は「我々の使命に全く影響しない」と政治からの独立性を強調した。

6月のFOMCでの利下げに関しては否定的な見解を示した。こうした点からドルは堅調に推移した。そして、米英の関税交渉での合意が報じられると、ドル円は一時146円台に乗せた。その後も145円台での推移を見せている。

【米中の関税交渉に期待】

日米の経済指標やイベントとしては、12日に日本3月経常収支、13日に米4月消費者物価指数、14日に独4月消費者物価指数、15日に米4月小売売上高、米5月NY連銀製造業景気指数、米4月生産者物価指数、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米4月鉱工業生産・設備稼働率、16日に日本第1四半期GDP1次速報、日本3月鉱工業生産指数確報値、米4月住宅着工・建築許可件数、米4月輸入価格指数、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、米3月対米証券投資などがある。

6月のFOMCでの利下げに否定的な見解を見せており、CME FEDウォッチによる6月の利下げ確率は16%台まで低下している。FRBによる利下げがやや遠のいたとの見方から、ドルは底堅い推移を続けそう。ただ、米中を中心とする米国と各国の関税交渉の動向に加えて、トランプ米大統領の発言に振り回されやすい展開が続くそう。

8日の海外市場で、米国と英国が貿易協定で合意したと報じられた。貿易摩擦への警戒感が後退している。米英が合意に達したことで、今後中国をはじめとした他国との交渉が進展するとの期待感が広がっている。

米中両政府によると、10日と11日にスイスで米国のベッセント財務長官とグリア通商代表が中国で経済政策を統括する何副首相と会談を行う。市場は協議開始を好感してドル買いの動きとなったが、両国の合意までにはかなりの時間がかかるとの見通しもあり、依然先行きは不透明となっている。

米英のように前向きな成果を得られるようならドル買いに傾くとみられる。一方で、協議が物別れに終わり、対立が強調された場合はドル売り円買いとなる可能性もありそう。こうした中、ドル円は143～145円台を軸に上下に振幅するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、142.00～148.00円。

【ユーロドルは上値重く推移か】

ユーロドルはドルの堅調さもあり、上値の重い展開を見せている。ユーロドルは高値圏から、もみ合いながら軟調な推移を見せている。こうした中、21日移動平均線を割り込み、5日移動平均線も下回って推移している。6月の欧州中央銀行（ECB）理事会での利下げ確率が85%前後で推移する中、ユーロドルは上値の重い動きを続けるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1400ドル。

8日の英金融政策委員会（MPC）で英中銀（BOE）は政策金利を0.25%引き下げた。利下げ幅は市場予想通りとなった。票割れは5名が0.25%利下げ、2名が0.50%利下げ、2名が据え置きを主張した。その後、米英の貿易協定の合意報道からドル高に傾いており、ポンドドルは上値重く推移している。こうした流れを引き継ぎ

ポンドドルは軟調に推移することとなりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、
1. 3 1 0 0～1. 3 4 0 0ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、1 3 日に英 4 月雇用統計、独 5 月 Z E W 景
況感指数、1 4 日に独 4 月消費者物価指数、1 5 日に豪 4 月雇用統計、英第 1 四半期 G
D P 速報値、英 3 月鉱工業生産指数、英 3 月製造業生産指数、英 3 月貿易収支、ユーロ
圏第 1 四半期 G D P 改定値、ユーロ圏 3 月鉱工業生産指数、1 6 日にユーロ圏 3 月貿易
収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。